

イースター戦略を企画・立案

甲南大学

甲南大学（神戸市）は、学生一人ひとりの個性を尊重して育てる圧倒的少人数教育により質の高い教育を提供している。また、来年4月には母体である学校法人甲南学園が

創立100周年を迎え、さらなる革新を続けている。特に同大の革新を象徴するのが「KONANプレミアプロジェクト」だ。その一環である「神戸スイーツの研究活性化拠点」では、経営学部



アイデアを積極的に推進・展開する「KONANプレミアプロジェクト」

の西村順二教授の2年生ゼミ（マーケティング論専攻）に所属する学生たちが、モロゾフ株式会社（本社・神戸市）と平成30年4月1日のイースターに向けて共同開発を行ってきた。

イースターとは、キリスト最古の儀式で、キリストの復活を祝うと共に冬から春へと変わる季節を祝う祭日である。これまで同社では、イースターに合わせて家族が集まってプリンやチーズケーキな

どのスイーツを楽しむための企画や戦略を発信してきた。同大との共同開発は昨年9月から始まり、今後の日本でのイースター文化の定着とスイーツイベントを盛り上げるため、学生たちはさまざまな企画を考案。企業調査はもちろん、消費者へのアンケート調査を行い、その結果に基づいたSNSの活用策やキャッチコピーの検討など、半年をかけてイースター・プロモーション戦略を進めてきた。

3月13日に行われた最終発表会では、モロゾフ株式会社の山口信二代表取締役社長を迎え、これまでの研究成果を報告した。学生たちは「イースターでいいSTART（モロゾフのチーズケーキと共に大切な人への気持ちを届けよう）」をテーマに、デンマーククリームチーズケーキとmoovinカードのセツト販売を提案。贈り物だけで

は、moovinカードを使用することで、アプリで作ったムービーをメッセージカードに添えることが可能になり、大切な人との思い出や日頃の感謝などを伝えることができるという企画に仕上げた。山口社長は研究報告に対してコメントを残し、学生たちにエールを送った。考案した企画の一部は、今春同社の三宮センター街ショップ等で展開される予定だ。

「大新聞」第154号（平成30年4月10日発行）掲載